



1. 平成28年度 第8回 さろんアップルを開催しました

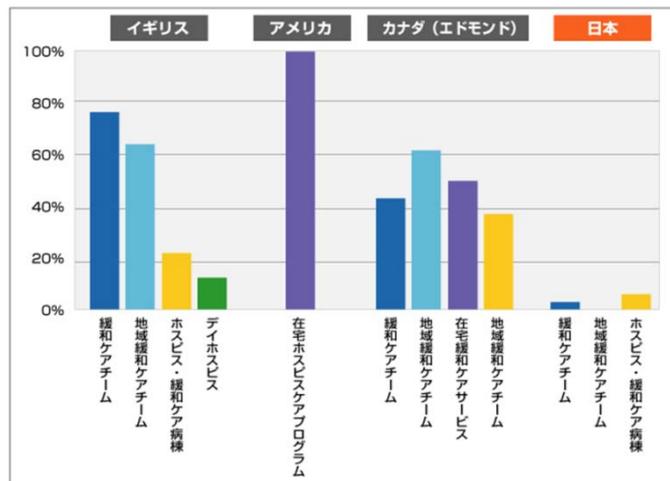
28年度、「第8回さろんアップル」が、11月15日(火) 平鹿総合病院で開催されました。今回は、緩和ケアについて、緩和ケア認定看護師の奥山さんがお話してくれました。10名の方の参加がありました。

緩和ケアについて

緩和ケアの理解について

平成25年1月の内閣府のがん対策に関する世論調査によると、緩和ケアについて知っていますか？という質問に対して、知らない(35.7%) 言葉だけは知っている(29.0%) よく知っている(34.3%)とまだまだ緩和ケアが理解されていないことが示唆されています。緩和ケアの周知されていないことは、緩和ケアの利用率にも大きく影響しており、イギリス、アメリカ、カナダと比較しても、日本の緩和ケアの利用率はとても低いのが現状です。

表1 緩和ケアを行っている医療サービスの利用率



緩和ケアとは

がんの進行した患者さんに対するケアと誤解し「まだ緩和ケアを受ける時期ではない」と思い込んでしまう患者さんや家族は少なくありません。しかし、本来、緩和ケアは、患者さんの体や心のつらさを和らげ、生活やその人らしさを大切に考える考え方です。診断されたからの期間や、がんの病状によって緩和ケアを受ける、受けないを決めるというものではありません。例えば、がんと診断されたときには、ひどく落ち込んだり、落ち着かなかつたり、眠れないこともあるかもしれません。抗がん剤や放射線治療では食欲がなくなったり、吐き気などの副作用が起こることもあります。また、痛みはがんの早い時期にも、進んだ時期にも見られる症状です。痛みが強いまではがんの治療もつらく、また生活への影響も大きくなってしまいます。また、がんが進行した時期に、痛みや吐き気、食欲不振、だるさ、気分の落ち込み、孤独感などに対して適切な治療やケアを受けることは、生活を守り、自分らしさを保つことにつながります。緩和ケアは患者さんのどのような病状であっても、どのような時期にも受けることができます。

平鹿総合病院の緩和ケアについて



緩和ケアチームからのメッセージ

平鹿総合病院には、緩和ケアを専門に行うための緩和ケアチームがあります。「緩和ケア」について考えるタイミングは、「早すぎる」ことも「遅すぎる」こともあります。必要な時期に、いつでも受けられます。緩和ケアに関しては、主治医や看護師及び、がん相談支援センターにご相談ください。(一番下の問い合わせ先)

緩和ケアのスタッフは、患者さんの悩みや不安について、一緒に考え、納得できる選択をするために支援していきたいと思っています。



次回のさろんアップルは



12月20日(火)

「さろんアップル忘年会」

楽しい催しものを企画しています。

時間:10:00~12:00

場所:平鹿総合病院 第1会議室

対象:がん患者さん 家族

参加無料:予約なし・直接お越しください。

お一人で悩んだり不安なことがありましたら、いつでも「がん医療相談室」へお立ち寄りください。

(電話相談も承っております。)

問合せ先:平鹿総合病院 0182-32-5121〔代表〕

がん相談支援センター 中田(内線2145)